

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4771000066		
法人名	社会福祉法人 千寿会		
事業所名	グループホーム寿		
所在地	沖縄県糸満市字真栄里323番地		
自己評価作成日	平成23年 7月20日	評価結果市町村受理日	平成23年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokouhyou.jp/kai gos ip/ infomationPublic.do?JCD=4771000066&amp;SCD=320&amp;PCD=47">http://www.kai gokouhyou.jp/kai gos ip/ infomationPublic.do?JCD=4771000066&amp;SCD=320&amp;PCD=47</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1階		
訪問調査日	平成23年 8月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

\* 認知症ケア専門のスタッフが、それぞれの利用者に合わせて活動プランを用意し、生活リハビリ(炊事・洗濯・お掃除・買い物)を中心に手工芸やレクリエーション、ミニドライブなど、様々な活動への支援を行っています。  
 \* 入居者9名・デイサービスの受入れ定員3名と小規模な施設です。その分利用者とスタッフとの間に距離が無く、身体介護・活動への支援など常にマンツーマンな対応が行われています。  
 \* 近隣の幼稚園(週2回)、老人クラブと定期的に交流しています。(合同の敬老会・忘年会・お誕生日会など)また伝統行事(糸満 ハーリー・大綱引き・浜下り・那覇マラソン応援等)への参加など、地域との交流が盛んに行われています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今回の外部評価に際して管理者は、実状を把握し今後につなげていく姿勢で臨み、全職員が事業所の評価を行い、新人職員や少数意見も全て実践状況として記述している。定例会では、代表者と共に全職員で理念を振り返り、入居者の尊厳を意識したケアに取り組んでいる。また、職員の業務担当を明確にし入居者の生活プログラムを充実させている。職員は、認知症を理解し入居者1人ひとりと向き合い家庭的環境の下、入居者の活気ある生活を支援している。運営推進会議も定期的に開催し、行政等と連携しながら地域との交流に取り組み、近隣幼稚園との「花鉢交流」は4~5年も継続している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・月に一度の全体ミーティングで話し合い理念の共有と実践に努力している。 ・管理者との共有が不十分なので努力したい。	理念は、開所時に作成した「家庭的環境の下、尊厳を守り、活気ある生活の支援」等に加え、全職員で検討し新たに「地域交流」を掲げている。毎月の全体会議では、代表者と理念の共有を図り、日々のケアに理念が反映されているかを確認し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・近隣幼稚園との定期的な花鉢交流・ドライブ・買い物や地域老人クラブとの合同の敬老会、ボランティアの受け入れなど、日々の日課や年間の行事を通して交流が持っているとと思う。 ・無い様に思う。地域の一員として実感が無いので、努力したい。	自治会に加入し、綱引き等の地域行事に入居者と出かけ、事業所の行事にも地域の人に参加し交流している。週2回、近隣幼稚園で入居者と水やりを行う「花鉢交流」を継続し、園児等も定期的に事業所を訪問し、手作りムーチー等の差し入れを受ける等の交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員間での勉強会・研修参加などは活発に行っているが、地域の人々に向けた啓蒙活動などが不十分に感じる、努力し取り組みたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・委員からの助言・アドバイスがホームでの処遇に活かされている。(参加しない職員も議事録等で確認・勉強し、日々の業務に反映できるよう努めている。) ・参加していないので判らない。	運営推進会議は、入居者や家族、市や包括、有識者等が参加し、2か月毎に開催している。会議では、事業所の活動状況や評価等の報告を行い、課題に対し委員から地域の情報やケアへの専門的な助言が得られ、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議を通じ、行えている。 ・居宅介護支援センター開設により、今後更に充実していくと思う。 ・担当でないため判らない。連携の実感が無い。	運営推進会議に包括と市担当者の参加があり、事業所の状況を報告している。また、日頃から市担当者には入居希望者の情報提供や「こんな時どうする会」の開催等の相談を行い、地域家族会の紹介やアドバイスが得られ、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職員・管理者共に注意し、あらゆる拘束の予防・防止に努めています。 ・夜間や利用者の危険を防止する場合を除き、ドアの施錠など、拘束は一切行っていません。	拘束については、勉強会で理解を深め、定例会では「言葉の拘束はないか」等、日々のケアを振り返り、全職員が拘束を行わないことを確認している。入居に際しては、リスクや安全対策等を家族に説明し、入居者の自由な暮らしを支援するため玄関の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員・管理者共に注意し、あらゆる虐待の予防・防止に努めています。 ・殴られても殴らない、虐待は絶対に無いです。		

沖縄県(グループホーム寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の機会があれば、ぜひ参加したい。</li> <li>・今後のためにホームでも勉強会を開催してほしい。</li> </ul>		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分に図られている。</li> <li>・職員も家族に対し十分な説明が行えるよう備えたい。</li> </ul>		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に利用者・ご家族の意見を尊重し、支援しています。</li> <li>・利用者本人や家族が十分発言できるよう。運営推進会議に参加してもらうなど、機会を設けている。</li> <li>・各利用者に担当者をつけ、家族・主治医との連絡・連携に努めている。</li> </ul>	入居者の要望は、担当職員により日々のケアの中で直接把握している。家族に対しては、運営推進会議やカンファレンス等、訪問時に聞いている。家族から「デイケアと同様のマッサージをして欲しい。」と要望があり、職員配置を工夫し、個別計画に位置付けて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング(職員ミーティング)等、話し合いの機会を設けています。	職員は代表者や管理者が参加する定例会等で「リハビリを意識した洗濯物の取り入れ方」や「マッサージ支援時の職員配置の工夫」等を提案し、業務に反映している。担当制は、入居者と職員の馴染みの関係を考慮した人員配置を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外で行われる様々な勉強会・研修等への参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH連絡会主催の勉強会・研修等多く、他施設と交流がもてる機会がある。		

沖縄県(グループホーム寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・努めています。 ・一人で悩まないよう、問題解決のサポートを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時には、本人・家族にも参加してもらい、意向が十分に反映されるよう取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・アセスメントが不十分に感じる。 ・ケアプラン作成時には、本人・家族にも参加してもらい、意向が十分に反映されるよう取り組んでいます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家族のような関係作りを心がけている。 ・人生の先輩・第二の家族として接しています。 ・介護させてもらっているという気持ちで支援しています。 ・築かれていると思う、職員は利用者から心の介護を受けています。 ・まだ介護者としての気持ちがある、努力したい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族には個人の誕生会・ホームの行事などの参加や病院受診時の付き添いなどにも協力を促し、出来るだけ本人と家族の絆が薄れないよう努力しています。 ・担当職員を通し、家族との連絡が十分図れるように工夫しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・支援している。 ・出来ていないと思う、今後の課題として取り組んでいきたい。 ・利用者の大切な思い出や人々の話をしっかり聞いて、共に共感できるよう努力したい。	入居者の地域社会との関係性は、本人や家族・知人や地域の人等から把握している。信仰をもつ入居者に対しては関係者が訪問しやすい環境作りを行い、通い馴れた市場での買い物、行きつけの美容室への送迎等を支援し、馴染みの人や場所が途切れないよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共に生活する仲間として、励ましあい支えあえるよう、日々工夫しています。		

沖縄県(グループホーム寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・相談を受けたことが無い。 ・相談や支援の必要があれば、協力できるよう努めたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスでは本人・家族を交え話し合いが行われている。また意思表示の難しくなった利用者に対しても、本人本位な検討を心がけている。	入居者毎に担当制を取り入れ、家族との情報交換や日々のケアの中から、本人の気持ちや思いを把握して。意思表示が困難な場合は、本人に寄り添い状態を観察し、訴えを見逃さないよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・出来ている・努力している。 ・細かいアセスメントが出来るよう努力したい。 ・いろいろな話を聞き、ホームでの活動と照らし合わせ検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康状態・精神状態は細かくチェックし、訪問看護師・医療機関と連携しながら健康状態把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人・家族・関係者の意見が反映されていると思う。	カンファレンスには、本人や家族が参加して意向を確認し、介護計画を作成している。「入居してもデイケアを利用したい」と希望する入居者に対しては計画に位置付け継続して支援を行っている。担当職員が毎月モニタリングを実施し、急変時の計画変更や定期的な見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護日誌や連絡帳などを利用して、情報を共有できていると思う。 ・連絡不足を感じる、職員全員がしっかりと情報を共有できるよう更に工夫が必要。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・サービス計画にとらわれず、臨機応変な対応で、利用者を支援している。(活動の変更や追加) ・完全受容の気持ちで、十分なサービスが提供できるよう対応しています。		

沖縄県(グループホーム寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・支援している。 ・地域資源との関わりが無い。(薄い) ・地域資源の把握・見直しを行い活用していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する医療機関への受診してもらっています。また利用者の健康状態に合わせ十分な医療が受けられるよう、訪問看護師からアドバイスももらったり、主治医・家族とも十分に話し合い支援しています。	入居者全員が入居前よりのかかりつけ医を利用し、受診は家族が対応している。定期受診時には訪問看護師が事前に入居者の状況を主治医に伝え、受診結果は、診療情報提供書で報告を受けている。緊急時は職員が同行し、家族へ書面や口頭で情報提供を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は勤務していませんが、訪問看護師・家族と連携し十分な対応が行われています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・訪問看護・家族の協力が有り、入院時の連絡調整などスムーズに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・看護師による学習会など実施している。 ・家族との話し合いが不十分に感じる。 ・医療機関・家族との話し合いを進め、体制を整えたい。	入居時に、医療との連携や「重度化した場合の対応及び看取りケアの指針」について家族に説明し、同意書を作成して意思を確認している。また、定期的に話し合いを持ち方針を共有している。「看取りについて」の職員の勉強会に、利用者も一緒に参加し話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・勉強会・講習など定期的に行われているが、充分とは思わない、何度も訓練が必要と思う。 ・ホーム内外で行われる講習会には積極的に参加し実践力を身に付け、急変・事故に備えたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・利用者・家族にも参加してもらい、年2回の防災避難訓練が行われている。 ・地域との協力体制が築けていると思う。 ・実際に火災・災害が起きた場合、地域の協力が十分得られるか不安。	消防署と連携し、早朝と日中を想定した避難訓練を年2回実施した他、4月には自動火災通報装置等を設置している。6月の避難訓練時には、自動通報装置に登録した地域協力者へ連絡、確認を取る等協力関係を築いている。職員は、消防機器の取り扱いの充実に課題ととらえている。	自動火災通報装置を設置する等災害時の迅速な対応に向けての環境が整備されている。今後、全職員の消防機器取扱の周知等、訓練内容を深めていく取り組みに期待したい。

沖縄県(グループホーム寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>十分に配慮し対応している。</li> <li>利用者を傷つけない言葉使いに注意しています。</li> </ul>	2か月毎に、介護マニュアルを読み合わせ、接遇やプライバシー保護に関する勉強会を行っている。定例会でも職員の言葉遣いについて外部の声や職員間の気づきを話し合っている。入居者らしい姿を大切に、同じ目線で、状況に合わせてのケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>常に配慮し対応している。</li> <li>意思疎通の難しくなってきた方には特に配慮して働きかけていきたい。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者一人ひとりの希望に沿って支援している。</li> <li>時々、職員のペースになってしまうことがあるので、希望に添えるよう努めたい。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>配慮し支援している。</li> <li>(全員が)お洒落するのは、正月ぐらいに思う。</li> <li>もっとお洒落させたい。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援出来ている。</li> <li>調理手伝いにもっと利用者を参加させたい、声掛け促しが必要だと感じる。</li> <li>その日の利用者ADLの状態に合わせ参加出来る活動を工夫し支援したい。</li> </ul>	メニューはその日の食材を見て決め、入居者はやしのひげ取り等のごしらえや盛り付けを行っている。食事は朝・夕は食堂で行い、昼はホールで職員も一緒に楽しく食事をしている。又、年2回の遠足は外食、浜下りには手作りの重箱弁当にする等、食事を楽しむよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	細かくチェックし個別に支援できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態を個別に把握し対応している。		

沖縄県(グループホーム寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状態を個別に把握し対応できている。</li> <li>・十分とは思わない、失敗が多い時があるので改善が必要。</li> </ul>	<p>入居者の排泄パターンを把握し、適宜トイレでの排泄を促している。日中は全員、布パンツとパットで過ごし、夜間はリハビリパンツとパットで対応し、トイレやポータブルトイレに誘導している。失敗時は、さりげなく声かけし、居室で着替えるなど羞恥心に配慮している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェック表・日誌を利用し、個別に状態を把握、対応できている。</li> <li>・薬による対応以外にも食事内容や水分の摂取量など調整を行っています。</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームで決めた入浴日にかぎらず、常に利用者の希望に配慮するよう心がけています。</li> <li>・入浴時は介助者とコミュニケーションなどで楽しみながら、また当日の体調にも気を配り無理せず本人のペースで入浴できるよう支援しています。</li> </ul>	<p>入浴は1日おきで、夏は午後、冬は午前と決めているが、入居者の希望に沿うように努めている。入浴介助は、同性を基本とし個別に対応している。入浴を拒否する時は家族に相談しながら対応している。更衣が安心して出かけるように椅子を設置し、安全面にも配慮している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>利用者一人ひとりの生活パターン・健康状態・精神状態などに合わせ支援を行っている。</p>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護師・家族とも十分連携しながら、利用者一人ひとりの健康状態(気持ちなど)をその都度確認し、服薬支援を行っています。</li> <li>・利用者に薬の説明をしてから、安心してもらい介助を行うなど工夫しています。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の諸活動を通し、利用者の認知力・ADLの状態に合わせた支援を行っています。</li> <li>・利用者全員に対し十分に支援できているとは思わない、努力したい。</li> </ul>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の希望に沿えるよう、ドライブや買い物などを支援しています。また家族にも協力を促し、外食などにいられる方もいます。</li> <li>・活発なほうだと思いが、特定の利用者だけにしないよう注意したい。意思表示の困難となった方にも充分配慮して取り組んでいきたい。</li> </ul>	<p>入居者は日常的に散歩や買い物、通所送迎に同乗してドライブに出かけている。また、家族や職員と一緒に地域の祭りや浜下り等行事で他方面へ外出している。正月や盆の時には家族に協力を求め、外出や帰宅支援に取り組み、野球の好きな入居者のプロ野球観戦に同行し生きがい支援に繋げている。</p>	



沖縄県(グループホーム寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭を管理されている方には、無くさないよう、また買い物の際、買いすぎないように(使いすぎないように)見守り支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者の希望に合わせて家族へいつでも連絡できるよう支援しています。 ・ホーム内に旧式の公衆電話を設置しており、利用する方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用スペースを季節に合わせて飾り付けたり、利用者の作品を展示しています。 ・トイレ(入口・便器)・浴室の表示や時計・暦(利用者が張替える)の設置など工夫しています。 ・居室の模様替えや問題のある環境については、その都度修繕しております。	入居者が集まるホールは、風の通りも良く、暦は、今までの生活に馴染んだ新暦と旧暦を用意し、廊下には、腰を下ろせる椅子を置き居心地よく過ごせる工夫をしている。共用空間のトイレには扉がなく、出入り口より少し奥にカーテンを取り付けているが、廊下から見える状況にある。	入居者が安心して利用できるようプライバシーに配慮した改善の検討が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食堂・共用ホールの席の配置などは、本人の希望や対人面でのトラブル回避など、特に配慮して支援します。 ・本人のペースで食堂・居室・ホール・建物外周など自由に利用されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家族の協力が得られる方は、担当の職員を通して居室の整理整頓を行っています。 ・利用者の趣味の物や作品・写真などを飾りつけたり、それぞれの利用者に合わせた居室作りを行って居心地よく過ごせるよう工夫しています。	居室は和洋の部屋があり、広さや備え付けの家具も異なっているが、家族の協力を得ながら入居者に合わせた居室作りを支援している。花やギターなど思い出の物を持ち込み、家族を忘れないように名前や写真をいつでも見える場所に貼るなど本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・安全面に配慮しその都度居室を整理しています。またベットやタンスの位置・高さ等もADLに合わせ調整しています。 ・炊事・洗濯・お掃除など生活に関する全ての活動を利用者に無理なく行ってもらえるよう工夫し支援していきたい。		